

令和2年度 調布市立北ノ台小学校 学校経営計画（学校長 箱崎 高之）

学校の教育目標	
○思いやりのある子ども ○よく考える子ども ○明るく元気な子ども	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
目指す学校像 【ごきげんな学校】 (1) 児童にとって 「よここびのある毎日」 ・学んで分かるよここび ・自分の成長が実感できるよここび ・自分の存在が認められるよここび ・将来に希望がもてるよここび (2) 保護者, 地域にとって 「安心して任せられる学校」 ・開かれた学校 ・教育活動の積極的な発信 ・素早く, 丁寧で誠実な対応 ・協力, 協働の意識で ・一緒に悲しみ, 悩み, 喜ぶ (3) 教職員にとって「ごきげんな職場」 ・一人で抱え込まず組織的な対応をする ・教師も学び, 切磋琢磨して成長する ・コミュニケーションをよくとる ・創造的なことに取り組む ・職に誇りと責任をもつ	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	○児童は素直で真面目であるが, 全体的におとなしく控えめである。児童が自分のよさに気付き, 自分のよさを生かすことができるよう, 環境を整え, 活力に満ちた学校にすることが課題である。 ○個別の支援を必要とする児童が一定数いる。また, 不登校及び不登校傾向のある児童が 30 名と多い。定期的な校内委員会の開催や SC, 関係機関と連携した組織的な対応を進めることが課題である。 ○教員は, 教職経験 10 年未満が多い。また, 新学習指導要領や新たな教育課題への対応がまだ十分ではない。校内研究や OJT を通して, 教員の指導力を向上させることが課題である。
中期的な経営目標	
① ・「あいさつ」を核とした基本的な生活習慣の定着 ・自他ともに大切にする態度の育成 ・安全で清潔な学校づくり ② ・基礎的・基本的な知識及び技能の定着 ・主体的に学習に取り組む態度の育成 ③ ・安全及び心身の健康保持増進に関する指導の充実 ・オリ・パラ教育の推進 ・基礎的な体力の育成・向上 ④ ・保護者・地域の方々との「共育」により, 児童の地域への帰属意識を育むとともに, 憧れや慈しみ, 思いやりや敬愛の情などを育む。 ⑤ ・ICT 機器を活用した授業改善 人・組 ・授業力の向上 ・校務分掌の活性化 ・服務規律の徹底 ・ライフ・ワークバランスの推進	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
① 豊かな心(徳)	② 確かな学力(知)	③ 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策) ①「みんなのきまり」を基に全教職員による一貫した, ルールの遵守, 挨拶, 正しい言葉遣いの指導を行う。 ②いじめについて考える授業を全学級で各学期 1 回, 年間で 3 回行う。 ③靴箱の靴を揃えることや清掃の指導を充実させ, さわやかな環境を整える。	(1) 取組目標 (具体的方策) ①休校による授業時数削減分を土曜授業日の設定, 時程の見直しで補うとともに, 指導計画を適切に見直す。学習に遅れが生じた児童を対象に放課後学習教室を実施する。 ②児童の目的意識を大切にし, 主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実施する。 ③年間 9 回の校内研究で国語(書くこと)の指導力を向上させる。	(1) 取組目標 (具体的方策) ①調布市立学校における感染症予防ガイドラインを全教職員に確実に理解させ, 学校全体でガイドラインに基づく指導を徹底する。 ②オリ・パラ委員会を月 1 回開催し, 意図的計画的なオリ・パラ教育を実践する。 ③ねらいを明確にし, 運動量を確保した体育授業を行う。
(2) 成果目標 (数値目標) ①児童アンケート「すすんで挨拶している」85 点以上, 保護者アンケート「すすんで挨拶ができている」80 点以上 ②児童アンケート「いじめをしないで仲良く」95 点以上, 保護者アンケート「子供たちが安心して生活できる」85 点以上 ③教員評価「靴箱・清掃」80 点以上, 児童アンケート「きまりを守った生活」90 点以上	(2) 成果目標 (数値目標) ①各学年の年間授業時数を標準時数の 95%以上確保し, 指導計画の見直しと放課後学習教室の実施により学び残しを 0 (ゼロ) にする。 ②児童アンケート「すすんで学習している」80 点以上, 教員評価「対話を取り入れた授業」80 点以上 ③児童アンケート「書く力が高まった」80 点以上, 教員評価「指導力が高まった」80 点以上	(2) 成果目標 (数値目標) ①保護者アンケート「健康を保つための指導をしている」85 ポイント以上 ②教員アンケート「オリ・パラ教育の実践」80 点以上 ③児童アンケート「すすんで運動」90 点以上, 教員アンケート「ねらいを明確にした体育授業」80 点以上
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
④ 保護者・地域との連携	⑤ ICT 機器を活用した授業改善	
(1) 取組目標 (具体的方策) ①HP を年間 100 回更新する。学校便り, 学年便り月 1 回発行する。 ②地域学校協働本部を生かして地域の教育力を活用する。	(1) 取組目標 (具体的方策) ①ICT 機器を効果的に活用した授業を 1 日 1 コマ以上行う。 ②年間計画に基づいたプログラミング教育を行う。	
(2) 成果目標 (数値目標) ①教員自己評価「HP 更新, 学校学年便り発行」70 点以上 ②保護者アンケート「地域と協力した教育活動」90 点以上	(2) 成果目標 (数値目標) ①教員自己評価「ICT 機器の効果的な活用」80 点以上 ②教員自己評価「プログラミング教育の実践」80 点以上	

人材育成・組織運営
○授業力の向上 ・毎週水曜日に OJT (北翔塾) 枠を新設→学び合い切磋琢磨する環境づくり ・年間講師を招聘し, 校内研究を充実させる。 ○校務分掌等の活性化 ・校務分掌組織を一新し, 組織の運営を合理化する。 ・起案文書の流れを徹底し, 職の立場と役割を明確にし, 意識を向上させる。 ○服務規律の徹底 ・定期的な研修と服務ニュースレターを活用した校長講話により, 教育公務員としての自覚と人権意識を高める。 ○ワーク・ライフバランスの推進 ・校務支援システムを最大限活用し業務を効率化させることで, 週当たりの在校時間を 60 時間以内とする。